

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害者福祉論 Social Welfare for the Disabled		2年	後期	金曜日・1時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
井上美和	授業中に指示します	授業中に指示します	授業中に指示します	
授業の概要				
障害のある人の生活実態と、障害のある人を取り巻く社会情勢について理解する。そのために障害者基本法や障害者自立支援法などの法律を軸としながら、現在の障害者福祉制度への理解を深める。それらをもとに、障害のある人が置かれている状況を考察し、よりよい社会のあり方を模索する。				
授業の到達目標				
①障害の概念や障害のある人の生活実態を学ぶことができるようにする。 ②障害のある人の生活と現在の障害者福祉制度を照らし合わせながら、障害のある人についての理解を試みることができるようにする。 ③①、②をもとに受講者一人ひとりがよりよい社会のあり方を考察することができるようにする。				
授業の方法				
障害者福祉論の基礎となる法的根拠を軸に、障害とは何か、障害のある人の生活とはどのようなものなのかを配布資料をもとに講義形式で学ぶ。また視覚教材や新聞記事等を活用することで、障害の実態的な理解を試みる。				
学習の成果				
①障害のある人の生活実態と、障害のある人を取り巻く社会情勢について理解することができる。 ②障害者関連法規を学ぶことで、現在の障害者福祉制度への理解が深まることできる。 ③障害のある人が置かれている状況を考察し、よりよい社会のあり方について考えを深めることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業のねらいと進め方、成績評価について等の説明			
第2回目	「障害」観 歴史的な「障害者」の見方			
第3回目	障害とは何か（ICIDHとICF）			
第4回目	障害者の生活実態			
第5回目	ノーマライゼーションの理念			
第6回目	障害者自立支援法の概要			

第7回目	障害者基本法の概要・身体障害とは①		
第8回目	身体障害とは②		
第9回目	知的障害とは		
第10回目	精神障害とは		
第11回目	発達障害とは		
第12回目	障害者を取り巻く教育制度		
第13回目	障害者を取り巻く雇用制度・雇用支援		
第14回目	まとめ		
第15回目	まとめと定期試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		30%	①配布資料を毎時間持参しているか、②集中してノートをとっているか、③授業内容を考察してリアクションペーパーを書いているか、を評価基準とする。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		70%	授業内容を理解しているか、また当該科目の目標をどの程度達成できているかによって評価する。
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
なし 毎時間資料を配布する。各自が管理し、紛失しないようにすること。			
履修上の心得・ルール			
日頃から障害に関する情報に興味、関心をもって、積極的な態度で授業に臨んで下さい。毎時間、授業終了前にリアクションペーパーを課しますが、未提出者は欠席扱いとします。			